

2018年12月9日 ハイキングリーダー養成講座 トランシーバー操作方法の講習

使用機種: デジタル簡易無線機 アイコム社製 ICDOR6

通信距離 1~4km (5W 出力時。通信環境により異なります。)、使用可能時間約10時間
登録手続きを完了させるだけで使えます。資格は不要です。

1. トランシーバーの特性

- ①送信と受信は交互に行ないます。相手が送信しているときはこちらから送信できません
- ②会話の相手は不特定多数。送信している内容は誰でも聞けますが、相手が聞いているのかいないのか、応答がないとわからない。
- ③自分が誰で、誰と話すのか名乗りをあげる必要がある

2. 12月9日実技項目

- 1) アンテナを接続する
- 2) 電源を入れる、音量を調整する(最初は15程度)
- 3) チャンネルを設定する。通話チャンネルは2台とも CH05に合わせてありますので異なっていたら CH5に合わせる
- 4) ロック機能でチャンネルをロックする
- 5) (電源入れっぱなしだと電池が消耗するので、通話予定時刻をあらかじめ決めておく) 毎時0分、30分など
ただし、本日の実技では電源を入れたままにしておく
- 6) パーティーが離れる前に通話テストを行う。

2パーティー以上の山行では A 班班長に貸出依頼してぜひ活用してください。

基本的な使用方法

【通話チャンネルが決まっている場合】

- ① 相手と同じ通話チャンネル(CH01～CH14、CH16～ CH30)に合わせます。②[PTT(送信)]スイッチを押しながら、マイクロホンに向かって通話相手に呼びかけ、[PTT(送信)]スイッチをはなします。・・・**豊中労山 #1と#2は CH05に設定しました。チャンネルが異なると通話できません。**

【通話チャンネルが決まっていない場合】

- ①「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)に合わせます。 ※空いている通話チャンネル(CH01～CH14、CH16～ CH30)を事前に確認しておきます。② [PTT(送信)]スイッチを押しながら、マイクロホンに向かって通話相手に呼びかけます。③通話チャンネルを通話相手に伝えて、[PTT(送信)]スイッチをはなします。④通話相手に伝えた通話チャンネルに切り替えます。

豊中労山 A 班トランシーバーの具体的な手順

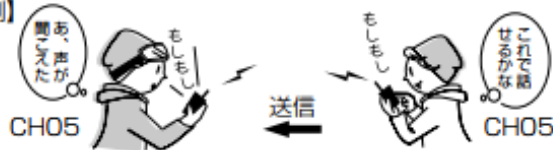
1. (電源入れっぱなしだと電池が消耗するので、通話予定時刻をあらかじめ決めておく) 例: 毎時0分、30分など
2. アンテナを取り付ける。通話予定時刻の2～3分前に、トランシーバーのつまみを回して電源を入れる
3. 音量を15位にしてみる。通話チャンネルは2台とも CH05に合わせてありますので、▲ ▼ボタンを触らない。
▲ ▼をベルトなどで触るとチャンネルが変更されて通話できない。**対策としてロック機能を使う**(FUNC を1秒以上長押しして設定または解除)。電源を入れなおしたり、不用意にキーやボタンに触れても設定や表示が変わらない機能。
4. **PPT(送信)スイッチを押し続けながら、1～2秒待つ**てマイクから5cm 離し「こちら豊中の AA です。BBさん感度ありましたら応答願います」と呼びかけて PPT スwitchを離す。PPT スwitchを離すと待ち受け状態になり、この間に相手が送信すれば、受信した音声聞こえます。
5. 相手からの呼び出しの音声聞こえたら **PPT スwitchを押し続けながら**マイクに向かって、「こちら豊中の BB です。感度良好です」とか応答する。 **自分が話しかけている間は PPT スwitchを押したままにする。ここを間違いやすい。**
6. 送信と受信は交互に行ないます。相手が送信しているときはこちらから送信できません。相手からの応答を求めるときは「どうぞ」をつけながら交互に送信する。一連の連絡の終わりには「以上」といいます。
- 7 会話が終わったら電源を切る。規則で5分以上連続しての会話は禁止されています



3 はじめての通話

相手と同じ通話チャンネルに合わせるだけの非常に簡単な通話のしかたについて説明しています。

【使用例】



1 電源を入れる

【電源/音量】ツマミを時計方向に、12時の位置まで回します。

- 「カチッ」と音がして、ピーブ音が「ピー」と鳴り、通話チャンネル番号が読み上げられます。

また、表示部と前面部にある各キーの照明が約5秒点灯します。



※ 防塵/防水対応により、簡単に回らない構造になっています。

【電源を入れたときの表示】



- ★ 工場出荷時や全設定初期化時は、呼出用チャンネル(CH15)を表示します。(※P9)

運用後は、前回選択した通話チャンネル(CH01～CH14、CH15(呼出CH)、CH16～CH30)を表示します。

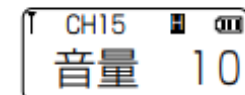
2 音量を調整する

【電源/音量】ツマミを時計方向に回すと音量が大きくなります。相手の音声聞きやすい音量レベル(表示例:10)に調整してください。

- 調整範囲:0～32

何も音が出ていない状態での調整は、【モニタ】スイッチを押しているあいだ、「ザー」という音が出ますので、この音を聞いて調整します。

※ 「ザー」という音が出ない場合は、【モニタ】スイッチの動作が【モニタ】に設定されていることを確認してください。(※P41)



音量レベル表示例:10



【モニタ】スイッチを押しているあいだ、【送信/受信】ランプが緑色に点灯

【ご注意】音量が最小のときは、操作音(ピーブ音)、通話チャンネル番号案内の音声や受信した音声は、聞こえません。

【ご参考に】チャンネル番号音声案内機能について
電源を入れたときや、チャンネル番号を変更したとき、選択された通話チャンネル番号を読み上げます。

※ 詳細セットモードで、音声案内(※P44)が「OFF」に設定されているときは、読み上げをしません。

3 通話チャンネルを合わせる

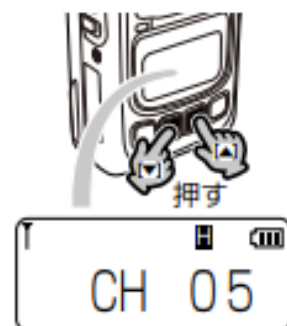
[▼](ダウン)キー、または[▲](アップ)キーを繰り返し押して、相手と同じ通話チャンネルに合わせます。

● 選択範囲:01~14、16~30
※ 通話チャンネルとは、通話に使用する周波数のことです。

相手と通話チャンネルが異なるときは、通話できません。

※ [▼](ダウン)キー、または[▲](アップ)キーを押しつづけると連続動作します。

一巡すると、ピーブ音が「ビビッ」と鳴ります。



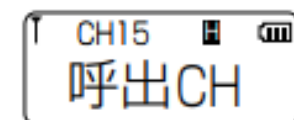
通話チャンネル表示
(表示例:5チャンネル)

【呼出用チャンネルについて】

呼出用チャンネル(CH15)は、「呼出CH」と表示します。

このチャンネルは、一時的な呼び出しにだけ使用しますので、グループ通話(☞P12)や秘話機能(☞P16)、個別呼び出し機能(☞P21)による通話に使用できません。

「呼出CH」で呼び出した相手と通話をつづける場合は、空いている通話チャンネル(CH01~CH14、CH16~CH30)に変更してから通話してください。



呼出用チャンネル表示

4 [PTT(送信)]スイッチを押す

[PTT(送信)]スイッチを押しながら、マイクロホンに向かって通話相手に呼びかけます。

● [PTT(送信)]スイッチを押しているあいだは、[送信/受信]ランプが赤色に点灯します。

[送信/受信]ランプが赤色に点灯

押しつづける



マイクロホン

【マイクロホンの使いかた】

マイクロホンと口元を約5cmはなし、普通の大きさの声で通話してください。マイクロホンに口を近づけすぎたり、大きな声を出したりすると、かえって相手に聞こえにくくなりますのでご注意ください。



【ご参考に】

◎[送信/受信]ランプが緑色に点灯中は、混信防止機能(☞P11)によって送信できない場合があります。

◎[PTT(送信)]スイッチを押したときのピーブ音について「ビッ」と鳴ったら、通話相手に呼びかけてください。

※ 詳細セットモードで、送信モニター(☞P37)が「OFF」に設定されているときは、「ビッ」(ピーブ音)と鳴りません。

5 相手の音声を受信する

[PTT(送信)]スイッチをはなすと待ち受け状態になり、相手局が送信すれば、受信した音声聞こえます。

受信中は、[送信/受信]ランプが緑色に点灯し、受信している電波状態(⇨P5)を表示します。

待ち受け状態のときは、[送信/受信]ランプが消灯しています。



通話相手以外の電波(同じ通話チャンネルで誰かが通話中)を受信しているときも、[送信/受信]ランプが緑色に点灯し、電波状態を表示します。

6 通話をつづける

送信と受信は交互にします。

※ 相手が送信しているときは、[PTT(送信)]スイッチを押しても混信防止機能(⇨P11)が動作して、ピープ音が「ブブッ…」と鳴りつづき、送信できません。

相手の通話が終了してから、送信してください。

※ 送信の終わりに「どうぞ」を付け加えると、互いの会話がスムーズになります。



7 電源を切る

使用後は、[電源/音量]ツマミを反時計方向に「カチッ」と鳴るまで回します。

● 電源を切る前の通話チャンネルを記憶して電源が切れます。

※ 電源を切る直前に、表示内容を変更してすぐ(2秒以内)に電源を切ると、電源を切る前の状態が記憶されません。

表示内容を変更後に電源を切るときは、2秒以上経過してから電源を切ってください。

